

# 安寧



兵庫縣姫路護國神社社報  
 「安寧」第三号  
 発行所 兵庫縣姫路護國神社  
 〒650-0003 姫路市本町一三八  
 電話〇七九一三三四一〇八九六  
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なところ

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

## 英靈の言乃葉

出撃にあたり弟へ

海軍大尉 水知創 一命

回天特別攻撃隊「轟隊」  
 昭和二十年七月十六日  
 本邦東南海面にて戦死  
 早稲田大学  
 兵庫県出身 二十一歳

慎二様

急に休暇が許され、又余りにも短かつたので呼ぶ事が出来ず悪い事をしました。

慎二は私のたった一人の弟です。早く立派な人になって父上、母上を喜ばしてあげてください。兄の様な親に心配を掛けてばかりる様な男になつてはなりません。

今に兄達が必ず敵をやつつけますから後は、慎二達が一生懸命勉強して日本をますます良い国にして下さい。では元気でしつかりやつて下さい。

創 一

# 春季慰霊大祭齋行（五月二日）

当日晴天に恵まれた緑鮮やかな境内に、八百名の参列者を迎え、十時三十分定刻どおり宮司以下祭員、参列者代表（大祭委員長・兵庫県遺族会長・崇敬奉賛会会長など）が祭典奉仕の為参道を参進した。本殿に拝礼の後、国歌が、市民合唱団の先導により斉唱され、修祓式続いて数々の神饌を供え、また淡交会西播磨支部幹事長田内宗代氏、千種青年部部長佐藤めぐみ氏・ゆめさき青年部部長西田由香子氏をはじめ支部有志に



より心をこめて点てられたお抹茶が供えられた。宮司の祝詞（全文掲載）は、大震災の復興祈願もあわせて奏上された。祭文は大祭委員長、兵庫県遺族会長、崇敬奉賛会会長（全文掲載）が奏上、神賑行事として福田賀徳陽、北村鯉杏、富士原浩山各氏により、「捧護國英霊（小山賀観作）」と題する詩舞が奉納された。続いて代表参列者の玉串奉奠が行われ、厳粛なうちに盛んに執り行われた。

## 祭文

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

会長 三宅知行

新緑燃えるこの荘嚴な神域で、春季慰霊大祭が齋行されるに当たり、兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会を代表し大前に謹んで祭文を奏上致します。

明治のご維新以来の戦役事変に悠久の大義のため夢多き青春の身を挺し、祖国の礎となられたご英霊の崇高な精神とご功績に報いるため、私たちは昨年の春崇敬奉賛会を設立いたしました。

戦後の我が国は諸霊のご加護と国民のたゆまぬ努力により、幾多の困難を乗り越え輝かしく復活し、先進国の中でも重要な地位を占めていますが、反面我が国が長年培ってきた伝統美風は損なわれ、個人主義的な傾向が強くなっています。

しかしながら、戦後六十五年を経ようやく敗戦の呪縛から徐々に抜け出し、日本人の古来からの価値観が見直されるようになってまいりました。いまこそ祖国守護のため、尊いみいのちを捧げられた諸霊の遺徳を顕彰し、神社の祭祀継続のため、

われわれ崇敬奉賛会の会員が、その意義を広く遍く国民に伝えていくとまではないかと思えます。

昨年は、崇敬奉賛会発会式の後、この春秋大祭や建国祭に参画し、日本の国柄を思い起こさせるための講演会を後援しました。本年に入つて新年祈願祭、四月二十七日には総会に合せて、東日本大震災復興祈願祭を齋行させていただきました。

本年も終戦記念日を中心に、諸霊の公的な精神の顕彰を進めてまいり所存であります。本日ご参列の方々のご協賛を合わせてお願いを申し上げます。

願わくば、ご英霊は安らかに神鎮まり給い、我が国のゆくてを護り導き給い、また、世界の平和と祖国の安泰に、更にはこの度の大災害に失われたたくさんの方々の御霊の鎮魂と、国民が一つになって進もうとしている復興に、大きなお力を垂れ給わんことを心から祈念して祭文いたします。

# 春季慰霊大祭祀詞

天伝布播磨國白鷺乃里縁那須杜乃真中怜志処底津磐根尔宮柱太敷立高天原爾千木高知里氏鎮麻須掛麻  
久母畏伎兵庫縣姫路護國神社乃大前爾宮司泉和慶恐美恐美母白左久

畏礼礼杼靖國護國神登仰奉留汝命等波其乃昔明治乃大御代与里以降幾度加乃國難爾恪志美勞伎給比別伎氏  
母歴史乃中尔類比無伎大東亜戦争爾当里氏波御國乎愛志志美給布赤伎心尔大君乃勅畏奉里氏倭心乃一筋爾身  
母棚知良尔盡久志給比尊伎御命乎御國爾捧給比志高久嚴志伎御績乎仰伎讚衣悞里奉里氏每年乃例乃隨々今年乃  
春乃御霊慰米乃大御祭仕奉留登今日乃生日乃足日爾大前爾御神饌御酒海川山野乃御饗物乎始米崇敬者

賀奉留香具波志伎茶湯乎取添衣机代爾置高成志神社本庁与里乃幣帛乎始御遺族崇敬者等乃幣帛乎捧奉里  
御神慮和米乃歌舞乎納米奉里氏厚久広久稱辞竟閉奉留状乎平良久安良久聞食志氏此乃広前母狭良爾參集比

氏汝命等乃現世爾坐志々当時乃事等悞里津々拜奉留御由縁深伎人々乃真心乎宇牟賀志登母看行志享  
給比天皇乃大御代乎千代田乃松乃縁常磐堅磐瀨留事無久弛具事無久守護給幸給四方乃海原波風起多

奴平穩志伎國乃礎弥固良加爾人々互比爾睦長親志美扶介締里氏神乃道爾違布事無久怠留事無久生業爾恪志美勵  
美心正志久身健也加爾子孫乃八十統爾至留麻伝五十樞八桑枝乃如久立榮衣由加志米給比綾尔妙奈留和御霊

奇御霊幸迎給登恐美恐美母白須  
辞別伎氏白左久

去志三月十一日乃未刻爾起里志東北地方太平洋沖地震更爾波大津波乃災害乎蒙里多留爾數多乃都道県  
爾大奈留損比乎齋志多里各々乃市町村乃有様波家波壞礼海波荒礼土波裂介山波崩礼許許多久乃人々瞬間爾

玉乃緒乎絶多礼留事登成里奴剩迎原子力発電所乃事故左辺起里氏人々乃煩比波又更爾深馬留事登波成里奴故今  
志大前乎拜美奉里高伎尊伎大神德乎仰奉里氏乞祈奉留状乎平良久安良久聞食志給比一日母速介久旧乃状

爾立帰良志米給比我賀大和国乎永久爾守里惠美幸閉給比災害爾苦志牟諸人等乃身母心母平穩爾守里導伎給閉  
登恐美恐美母白須

抄訳

播磨の国の縁深いすばらしいところに鎮座しています兵庫縣姫路護國神社の大前に宮司が申し上げます。靖国護國の神と称え仰ぎます神霊は明治の時代より数々の国難に立ち向かわれ、また、歴史の中でも類ない大東亜戦争に当たって国を愛する心に身を尽くされました。その偉業を春ごとに偲びその功績を称え御霊をお慰めする御祭を奉仕いたします。

海山川野の数々の神饌や神社本庁、御遺族崇敬者の幣帛をお供えし、淡交会の方々の心を込めて点てられた茶をも奉り、合唱団の美しい歌声で御霊をお慰めし、境内には所狭しと御遺族崇敬者が参列しています。その人たちの真心をどうか受け止めていただき、天皇様を頂く日本の国がますます栄えて次々と子孫が繁榮しますように御守護下さい。

ことを別けて申し上げます。去る三月十一日東北地方太平洋沖地震、更には大津波が押し寄せて、たくさんの方にわたる国民が命をなくしました。また、原子力発電所の事故も起こりその頃は深まりました。一日も速い復興にどうか大神様の大きなお力をいただき、伝統深いわが大和の国を永遠に御守り頂き、家族を亡くされた人や災害に苦しむ人々の心身を平穩に導き下さいますようお願い申し上げます。

# 公に奉ずる

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

常任理事 木南一志

東日本大震災が起こって、日本の心が世界の注目を浴びた。さほど驚くようなことでもない日常的なことが、絶賛に値する行動であるという。スーパーで散乱してしまつた商品を陳列棚にキチンと戻して、改めて列に黙って並んで買

い物をする姿。日本人なら普通そうするだろうという行動が、世界から見ると稀有な光景に映るのである。運転再開をした混んだ電車の中で妊婦に席を譲るお年寄り。駅の階段で一夜を明かすサラリーマンが真ん中を通路として左右に分かれて座る光景。中国では百年たつても出来ないだろうと報道されていた。

被災された人たちの誇れる行動は、教科書で教えられてきたものだろうか。決して、そうではないはず。誰もが生活していく中で周りのことを気遣い、思いやる姿勢が、「おたがいさま」や「おかげさま」として伝わり、人を大切にする文化が私たちの中にも根付いている。

全世界から賞賛された国民文化は、このように素晴らしい行動が出来る良さがあるが、さて実際の私たちは生活の中で親を思い、先人を尊敬するという行動が出来ているだろうか。

戦争を体験した人たちの多くは、大震災の現状を見て、あの悲惨な敗戦の焼け跡から比べると、まだ充分に立ち直れると自信たつぷりに話される。しかし、これからを生きる、新しい町を作り上げていく若者すべてが、その悲惨な戦争を知らない。体験していないことは当然のことだが、立派な先人が居たことさえも、その先人の素晴らしい行ないや考え方を教えられてもいけないし、我々の先輩たちは戦争を起こした悪い人たちであると教えられている。親や祖先を敬うことのない子供が立派な国を作り上げてくれるだろうか。夢を語り、素晴らしい地域や国を次の世代に残す生き方をしてくれるだろうか。

この国が歩んできた歴史を真正面からしっかりと伝えていかなくてはならない。自らの命を懸けて家族や地域を守り、今、こうして平和な国として私たちが生きていくことの出来るのは誰のおかげか。逃げてはならない、誤魔化してはならないと思うのである。

この大震災にも、自衛隊の隊員たちの多くが自らの体を酷使して行方不明者や原発周辺の活動も行ってくれていると聞く。遺体の前に瞑目合掌する自衛隊員たちの姿に、何も感じなかつた人などいないと思う。人間を大切にすることがそのまま、「おたがいさま」の相手を思いやる心へとつながるのである。

私たちが忘れていること、それは「公に奉ずる」ことである。自分が世間のお役に立つことを実行せずに、自分の権利ばかりを主張する。言い換えれば、親や先祖なしに自分は生まれてきたという主張なのである。伝えていくべき大切なことを有耶無耶にしてきたことで、こんな社会を作ってしまったともいえる。

自分の命は、数え切れない先祖のおかげで今、自分の中に生きているのである。父母を一代前として、

十代前には千二十四人、二十代前には百四万八千五百七十六人、三十代前までさかのぼると十億七千三百七十四万八千二百二十四人も先祖が今を生きる自分の命の元なのである。その命をさかのぼっていくことを教えないがゆえに、自らの命を絶つ自殺者が減らない。

百二十五代続いてきた天皇家につながるであろう日本人の命は、私の血でもある。そして、それは決して自分たちさえ良ければいいというわがままな文化ではない。多くの民族を受け入れ、現実を乗り越えてきたのが日本民族なのである。

誇り高き日本人として、社会のお役に立つ、公に奉ずる行動をお互いが実行することでこの国は必ず立ち直る、大震災からも復興を果たすと信じている。

私たちのためにこの国を守ってくださつた英霊に胸を張って、子や孫のために私たちが公に奉ずる行動を実行していくと誓いたいものである。

(株)新宮運送 代表取締役

# 郷土の明治維新の立役者①

本年五月十四日大阪在住の河合知子さんが始めて参拝された。当社のご祭神である河合惣兵衛命のご子孫である。汝命は兵庫県が生んだ明治維新の功労者である。

坂本龍馬や中岡慎太郎は司馬遼太郎の昭和三十七年の産経新聞小説で知られるようになる。その後、明治維新の意義が見直されるようになって彼らを知らない人が無いほど有名になっていく。同じ時代に日本国の将来を真剣に考えた若者たちが兵庫県にもたくさん存在した。郷土が生んだ維新でご活躍された当神社のご祭神について記していきたい。

今は市内では有数の歓楽街になっている塩町筋を西へ西へと歩いてゆくと関西電力姫路支店の北側船場川の東岸に大蔵前公園がある。船場川に船着場があり高瀬舟で荷物をここに運搬してきたことが公園の名として残っている。かつてここには姫路藩の獄舎があり、元治元年（一八六四）十二月二十六日郷土の志士たち

が処刑された。現在、「姫路藩勤王志士終焉之地」と記された大きな碑が立っている（写真）。この碑は大正五年にこの地に建立されたが敗戦後、占領政策によって当社の境内に移動、放置されていた。昭和四十三年、明治百年にあたり、姫路郷友会のご尽力により再びこの地に再建された。

姫路藩主の酒井家は常に幕府要

職についており、酒井忠恭の時に姫路に移封されて以来明治維新まで姫路城主となった。明治維新の際徳川方として行動したため佐幕派として朝敵視されていた。そのような事情にも関わらず勤皇の志士として数多くの方々が活躍した。

## 河合惣兵衛宗元命

姫路藩幕末勤皇の志士の中で中心的な役割を担い、武芸にも秀でていた。

藩校好古堂の肝煎役に選ばれ、監督指導は厳正で真の愛国を唱え、国

学教授の秋元安民とともに若者たちに大きな影響を与えた。彼は養子の伝十郎他同志十余人とともに藩主忠績公の京都禁闕守衛に同道し、専ら王室の中興を企図した。藩主に対しては所司代の行為は王室への不忠となるから協力しないよう説いた。しかし藩主は、徳川譜代の臣であるからとこれを退けた。しかし、時勢の変化の中、藩主は、河合惣兵衛に命じて近藤啓蔵、江坂元之助（御祭神）、萩原虎六（御祭神）、伊舟城源一郎（御祭神）、松下鉄馬（御祭神）、市川豊三（御祭神）の六人を伴い京都に情勢を探らせる。このとき長州藩土久坂玄瑞、熊本藩土宮部鼎蔵など諸藩の名士と交渉し、京都では河合惣兵衛の名を知らぬものはなかった。

しかし、時代の荒波にもまれ、養子の伝十郎（御祭神）の出奔の責めを負い、自刃する。

## 辞世

ひをむしの身をいかでかは惜しむべき  
ただ惜しまるる御世の行末  
（河合知子氏寄贈 姫路郷友会「姫路藩勤王志士小伝」を参考にさせていただきます）



# 陸上自衛隊姫路駐屯地の概要と東日本大震災への対応

## 第三特科隊長兼ねて姫路駐屯地司令

一等陸佐 藤木隆志

### 一 はじめに

本年三月十一日に発生した東日本大震災は我が国にとつて未曾有の大災害となり、陸上自衛隊にとつても各々の部隊として、また組織全体としての真価を問われる事態となりました。本災害に、姫路駐屯地からも多数の隊員を派遣しましたが、無事に与えられた任務を完遂することが出来ました。これも、平素から地域の皆様のご理解とご協力のもと、諸先輩方が宮々と築き上げられた伝統によるものと感謝しております。

### 二 姫路駐屯地の概要

(一) 駐屯地の沿革  
姫路駐屯地の前身は、明治三十年に第十師団隷下の第十野砲兵聯隊、第十騎兵聯隊等の部隊が駐屯したことに始まります。

自衛隊につきましては、その前身である警察予備隊が昭和二十六年に第六十三特科連隊をこの地で編成したこと、から部隊の歴史が始まることとなります。その後、第十特科連隊、第十三特科連隊、第八高射特科群等の部隊が当地で編成され、各駐屯地に移駐する等、中部方面管区の野戦特科部隊のルーツとなっています。その後も数度の改編を行って現在の形になっていますが、戦前、戦後を通じ、火砲をもって戦う部隊が中核部隊であり続けている駐屯地は全国的にも稀といえます。

### (二) 駐屯部隊の概要

現在姫路駐屯地に所在する部隊は、平成十八年三月以降、第三特科隊、第三高射特科大隊、第三後方支援連隊第二整備大隊特科直接支援隊・高射直接支援隊、姫路駐屯地業務隊等九個の部隊です。

第三特科隊は、上記の通り榴弾砲をもって師団主力として火力戦闘を行い、第三高射特科大隊は対空ミサイルをもって師団の防空戦闘の主体を為しています。特科及び高射直接支援隊は各々の部隊の整備支援を行います。姫路地駐屯地業務隊は、駐屯地施設の管理や駐屯部隊に対する補給品支援等を行っています。

(三) 駐屯地と災害派遣  
姫路駐屯地の担任する区域は、兵庫県全域から阪神地区及び北播・丹波地域を除いた地域となっており、この地域におきましては、兵庫県知事等の要請に基づき所要の部隊を派遣することになります。この他の地域におきましては、上級部隊からの命令に基づき所要の部隊を派遣することになります。

駐屯地創設以来、担任地域におきましては、昭和三十六年の室戸台風に伴い淡路地域に、昭和五十一年の台風十七号に伴い播磨地域各地に、平成七年の阪神淡路大震災に伴い神戸市等に、平成十六年の台風二十三号に伴い但馬及び淡路地域に、平成二十一年の台風九号に伴い佐用町及び宍粟市等に部隊を派遣して参りました。担任地域外では、昭和三十四年の伊勢湾台風、平成九年のロシア船ナホトカ号重油流出対応、平成十六年の中越地震等の災害に部隊を派遣しております。

### (四) 駐屯地と国際貢献活動

貿易立国の我が国にとりましては、世界の国や地域の安定は不可欠であり、また情報通信網の発達や経済のグローバル化によって各国・地域の結びつきが強くなり、遠く離れた地域における紛争も、我が国に脅威を及ぼすことが懸念されるようになり

ました。このため、平成十九年に自衛隊法の中で国際平和協力活動が本来任務として位置づけられることになりました。駐屯地としても、本来任務になる以前の平成四年以降、国連カンボジア暫定統治機構、国連兵力引き離し監視隊(ゴラン高原)、国連東ティモール暫定行政機構、イラク人道復興支援特措法に基づく活動等に要員を派遣して参りました。現在では、国連ハイチ安定化ミッションに要員を派遣しているところ です。

### (五) 駐屯地の行う行事等

四月に新隊員(自衛官候補生 入隊式、八月(平成二十三年は八月八日)に盆踊り大会、十一月(平成二十三年は十一月六日)に駐屯地創立記念式典、十二月に姫路城野外清掃、一月に成人式を行っています。平成二十三年度は、駐屯地開設六十周年の年に当たり、各々のイベントに「六十周年」を冠し、例年と一味違う趣向を凝らして実施する予定です。

### 三 東日本大震災への対応

#### (一) 自衛隊の対応

三月十一日に発生した東日本大震災の概要及び自衛隊の活動状況につきまして、皆様御承知のとおりとは思いますが、活動の概要について要点のみ説明します。

震災直後に東北、北海道及び北関東の関係知事から派遣要請を受け、行方不明者の捜索、被災者の救助、医療支援、瓦礫の除去、人員物資の輸送に加え、原子力発電所に対する冷却のための給水、避難支援等、広範多岐な対応を実施して参りました。三月十四日以降は、東北方面総監を指揮官として、最大十万人をもって統合任務部隊を編成しました。災害に際して統合任務部隊を編成するのは、自衛隊創設以来初めてとなりました。統合任務部隊は、六月二十六日現在も、人員約四万三千名、航空機二百六十機、艦船二十一隻をもって活動を継続しております。

#### (二) 姫路駐屯地の対応

##### ア 部隊の編成・派遣

上級部隊である第三師団は、中部方面総監の命により、約五百名規模の「第三師団生活支援隊」を編成し、三月十五日以降約四十日間にわたり派遣活動を実施、その後、五月二十五日に「宮城県南部生活支援隊」として約六十名規模に縮小して給食・入浴支援の活動を継続して参りました。

姫路駐屯地につきましても、発災の当初から情報を収集し、東北方面区に所要の要員を派遣できるとく準備し、三月十五日に「第三師団生活支援隊」に約七十名の給水、給食支援及び天幕設営の要員を派遣しました。

##### イ 派遣間の活動

派遣当初の活動地域は宮城県南部の内陸地域であり、現地到着直後から給食、給水等の支援を行いました。その後、現地のニーズに基づき沿岸部にも活動地域を広げ、給食・給水に加え、行方不明者の捜索や瓦礫の除去についても行うこととなりました。派遣当初は、朝夕の冷え込みが厳しく雪の舞う中で、また、補給品の補給も十分でない中で、活動となり、派遣隊員は苦勞の連続でしたが、現地の状況を見るに「我々がやらねば」、「被災者の立場に立った支援を行わなければ」との思いを強くし、与えられた任務を完遂してくれました。

### 四 おわりに

多様な事態への対応や国際平和協力活動など、近年自衛隊に与えられる任務が増加しております。これも、国民の自衛隊に対する期待の現れと認識し、姫路駐屯地として「明日に備え、今日に即応する」ことができるよう、即応態勢を維持しつつ、本格的な侵略事態などへの対応に必要な訓練を充実させていきたいと考えておりますので、これからも引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 声なき英霊達の思い

## 兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

常任理事 前川英昭

戦後六十六年を迎え、未だに靖國問題と言われ、八月十五日になると首相が参拝するかどうかで大騒ぎになる。世代も変わりつつあり若者の中には、どうして騒いでいるのかわからない人も増えてきたのではないかと思います。

世界どこの国に行っても、国家のために命を捧げた人を追悼する記念日や場所がありそして、国が大々的に式典を開催する。しかし、日本はそれが六十六年も出来ない不思議な国である。国のために命を捧げた人のお祀りすることに、どうして議論が起さるのだろうか。政治家や公の人は、公務上宗教的なことをしてはいけないなどと言っているが、すなわちこれは、日本文化を否定しなさいと言っているように聞こえる。本来、日本を守って行かねばならない公の人達に、日本文化から遠ざけるような処置をしているのではないかとさえ思える。

そもそも日本の神道を一宗教法人と同じ扱いと考えることに、無理がある。二千六百年以上続いてきた、日本の神道は日本そのものと言ってきた。そこから道徳や文化や芸術が生まれている。アメリカでは大統領に就任するときは、聖書に誓う。裁判でも証言台に立つときは、「嘘をつきません」と聖書に誓う。その神は言うまでもなく、キリスト教の神である。政教分離というのは、どの宗教を信心するの自由で、それで公務員になれなかったり、キリスト教を強制したりしません。という意味だ。例えば、キリスト教徒でない人がアメリカ大統領になる可能性もあるわけだが、その場合も聖書に神聖を誓うのである。それが、政教分離といわれるものだ。日本の場合は、基準が個人の価値観になつているところに

問題がある。その点アメリカは個人主義と言われている、公のルールが優先されていることが理解できる。

天皇陛下のご先祖は、天照大神で、その御孫の神武天皇が橿原で即位されてから百二十五代今上陛下まで一本の糸で繋がっている。これは日本文化そのもので、公の立場の人が神社に参拝してはいけないとか、神社の作法でお参りしてはいけないというのは、日本を否定するようなものである。大平正芳元総理はキリスト教徒だったが、お正月は伊勢神宮に、八月十五日は靖國神社に参拝している。これが公人として、そして日本人としての当然の礼儀作法である。

靖國神社や護國神社を否定的に捉える人の理由は、「戦意を高揚させる神社だから、戦争賛美になる。」とか「戦争を賛美するとまた戦争になる。」また最近よく聞くのが「A級戦犯が祀合されているから」などだ。現代の価値観で当時のことを語ったり判断してはいけない。

大事なことは、国のために命を捧げた人達の思いである。否定的な意見の中には、その人達のことを思う気持ちを感じられない。日本の防波堤になって散華された人達の思いを考えながら、感謝しながら静かに参拝するのが、後に続く者の使命ではないだろうか。

「戦意を高揚させる。」のは当時のことを考えれば当然だと思う。日本存亡の危機の時に、もしものことがあっても、魂は靖國や故郷の護國神社に帰り未来永劫に日本国民がお参りしてくれ、日本神様に感謝するから、勇気を奮い立たせ戦地に挑んでいったのではないだろうか。「戦争を賛美」という意見もあるが、日

本人ほど争いを好まない民族はいないと言っても過言ではない。争いは好まないが、独立心は強い。なるべく他人の世話にならずに生きていこうとする。危機に直面したらそれを放置したり、他人に委ねたりはしない、なんとか対処しようとする。そして、自分のことより公を優先する。この考えがあったから、アメリカも本土上陸作戦を断念し、昭和天皇の戦争責任を追究するのも断念したのである。戦を生きている我々は、当然のように慰霊と顕彰と感謝をしなければならぬ。なぜなら、先人達が必死になつて戦ってくれたからこそ現在の日本があるからだ。

いわゆる「A級戦犯」と言われている人達は、昭和二十八年に日本の国会で「戦犯ではない」と決議されたにもかかわらず、未だにこの言葉が使われるのはおかしい。当時、日本国のことを考えて一生懸命戦取りをしてきた人を戦争に負けたからと言って、犯罪者呼ばれるのはあまりにも酷い。さらに、死者にむち打つのは日本人として道徳的に疑問である。

古来から日本人は、人の気持ちを察することが得意な民族だ。自分の気持ちを露わにせず相手がどんな気持ちなのか、一生懸命考えようとする。それが白人には、わかりにくいとか、言いたいことを言わないなど、批判されることもある。しかし、私にはこれが日本の美しい文化の一環で、日本人の優しさだと思ふ。無言でこの国の防波堤になつた先人達。自分の気持ちを表に出さず、国のために散つていった人々、その先人達の気持ちを察するのが、現代に残された我々の役目ではないだろうか。

その英霊に感謝するお祀りが八月十五日午前十時から執り行われ、その後当時の日本人がどんな思いで戦つたかを考える「英霊顕彰の集い」を行います。少しでも当時のことが知りたいと思われる方は、「英霊顕彰の集い」に参集下さい。共に考えましょう。(詳細は、下記をご覧ください。)

(前川推進建設 代表取締役社長)

# 英霊顕彰の集い

英霊感謝祭本殿にて 午前十時から 誰でも参加できます。

日本のために戦ってくれた先人達に感謝の気持ちを捧げ、  
当時どんな思いだったかを考えよう。

平成二十三年 八月十五日(月)  
十一時〜十七時

パネル展示

- ・電子紙芝居「お父さんへの千羽鶴」
- ・英霊の言乃葉
- ・パラオと日本
- ・ひとり語り「パラオに散つた先人達」
- ・海ゆかば・他

兵庫縣姫路護國神社 参集殿二階

## 入場無料

特別講話

三木英一先生(元県立姫路東高校長)による

「終戦の詔書」解説

十四時〜

「堪えがたきを堪え、

忍びがたきを忍び……」って

どういう意味？

主催 兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会  
問合せ 兵庫縣姫路護國神社

電話 〇七九一三二四一〇八九六



# 兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会會員募集

兵庫縣姫路護國神社を支える人が日々少なくなっています。

護國神社を未来永劫に支えてゆくために多くの方々に崇敬奉賛会に入会してほしいと願います。

それが、日本を支えることにもなります。

〒670-0012 兵庫縣姫路市本町118 電話 079-224-0896

<http://www.himeji-gokoku.jp/>

## 日誌抄

二十三年三月

二十三年六月

平成二十三年

- 三月 一日 崇敬奉賛会運営委員会
- 三月 三日 全国護國神社会靖国神社出向
- 三月 十二日 神社総代会
- 三月 十九日 日本会議講座①
- 三月 二十一日 賀堂流碑祭二〇〇名参列
- 三月 二十三日 兵庫縣神社庁協議員会出向
- 三月 二十九日 おみや探検隊穴栗市へ
- 四月 二日 兵庫縣神社庁姫路支部役員会参加
- 四月 六日 旧軍恩会
- 四月 七日 兵庫縣神道青年会總會
- 四月 八日 日本会議大阪来社
- 四月 十日 國恩祭参列
- 四月 十三日 崇敬奉賛会運営委員会
- 四月 二十一日 兵庫縣神社庁理事会出向
- 四月 二十七日 崇敬奉賛会總會
- 四月 二十八日 姫路遺族会總會参加
- 五月 二日 春季大祭斎行
- 五月 六日 神戸護國神社春季大祭参列
- 五月 八日 戦友ビルマ会
- 五月 十四日 日本会議講座②
- 五月 十七日 兵庫縣神社庁財務・理事会出向
- 五月 二十一日 姫路郷友会總會参加
- 五月 二十五日 神社本庁会議(東京)
- 五月 二十八日 姫路郷友会皇居奉仕祈願祭
- 六月 一日 社報安寧編集委員会
- 六月 四日 佐用石井地区慰霊祭十五名
- 六月 七日 神河町慰霊祭二二〇名
- 六月 八日 崇敬奉賛会運営委員会
- 六月 十三日 賀堂流碑管理委員会清掃奉仕
- 六月 十五日 神社庁財務・理事会出向
- 六月 十八日 霊友会清掃奉仕・会館午前中
- 六月 十九日 現任神職研修会講師出向
- 六月 二十日 三日月町慰霊祭二〇名
- 六月 二十五日 日本会議講座③
- 六月 三十日 大祓式

(毎月一日、十五日 月次祭斎行)

## 美しき白鷺宮の結婚式

### 白鷺宮 参集殿

ご親族のみでのご会食から  
ご披露宴(～60名様)まで  
専任プランナーが当日まで  
サポートいたします



【婚礼受付相談室】

TEL. 079-224-0559

受付時間 10:00～19:00(火曜定休)

E-mail. [info@shirasaginomiya.com](mailto:info@shirasaginomiya.com)

※詳しくは婚礼専用HPにて

<http://www.shirasaginomiya.com/>

無料相談会  
開催中

\* 予約制 \*